



立科町

議会だより



議場デビュー!



ここに注目!!

子ども議会
民生児童委員合同研修会
商工会青年部意見交換会
観光先進地視察

2025.10.22 No.187

小学六年生



1 班

Q 児童館が満員のときがあります。安心して過ごせる場所や、自然を活かした遊び場をつくってほしい。

A 夏休みは権現山の屋内運動場を開放し、宿題や遊びに利用してもらいました。今ある場所を活用しながら、子ども達の安心できる居場所を大切にしていきたいです。



2 班



Q 野良猫や道路に出てくる動物が心配です。保護施設をつくったり、飼い猫に首輪をつけるなど命を守る工夫をしてほしいです。

A 県の動物愛護センターや団体が活動しています。すべてを守るのは難しい現状です。町で新施設は難しいですが、ペットを最後まで大切に思う気持ちが命を守る力になります。

Q 休日にバスがなく出かけにくいです。町外に行けるバスや休日の運行を増やしてほしいです。電車も通してほしい。

A 限られた予算で工夫しており、すぐの実現は難しいですが、「便利な交通の町に」という思いは同じです。新しい交通手段を研究し、実現を目指します。

3 班



4 班



Q 体育館が暑くて熱中症になる子もいます。エアコンや扇風機を増やして、安全に運動できる環境にしてほしいです。

A 権現山体育センターは避難所でもあり、快適環境づくりが急務です。大型扇風機 6 台に加え、来年度はエアコン設置を要望します。

5 班

Q 校舎の建て替えやスロープ設置、トイレの洋式化、小中一貫校化、避難所設備の整備など、安全で安心な学校づくりをお願いします。

A 立科小は来年50周年、中学校も36年目で建て替えの検討時期です。小中一貫校や施設改善を進め、体育館も避難所として安全に整え、安心できる学校づくりを進めます。



🌻 1組の感想 🌻

- ★議場は思ったより広く、きれいで落ち着いた感じで素敵だった。
- ★私達が提案してそれにすぐ答えられるのがすごいと思った。議場が少し暑かった。
- ★今までニュースでしか見たことがない所に実際に行き提案するという経験がすごく良かった。



子ども議会

1 班



Q 立科町のバスの本数を増やしてほしいです。休日や必要なときにバスがなく困っています。予約制や自動運転バスの導入も提案します。

A 10月からスマイル交通が改善され、自宅近くから目的地まで直行できるようになります。休日の運行は未定ですが、署名や意見で今後の改善が期待されます。他町では、自動運転バスの実証も進んでいます。

2 班

Q 人口を増やすために、お祭りや花火大会を開き、子どもからお年寄りまで楽しめるイベントで町の魅力を広めたい。

A 人口減少は深刻ですが、大規模なお祭りや花火大会には賛成です。ただし頻繁には難しいため、家族のピクニックや田んぼ体験など、身近な楽しみも大切です。



3 班



Q 立科町にも無料で使える学習室をつくってほしいです。

A 皆さんの要望に応えられるよう努めます。中央公民館などを活用し、学習できる場の整備を検討していきます。

4 班

Q 学校の校舎について①空き教室やパーテーションで学習しやすい環境をつくってほしい。②エレベーターを設置し、荷物やけが人を安全に移動できるようにしてほしい。

A 空き教室は、先生に相談して使えるか確認してください。パーテーションやエレベーターは、費用や施設の関係で町全体で検討します。



5 班



Q 私たちは立科町の未来について考えました。人口減少や高齢化に町はどう対応しますか。また、アスレチックやスタンプラリーなど、みんなが楽しめる企画はできませんか。

A 町では、人口減少に取り組んでいます。アスレチックやスタンプラリーなど、町の魅力を高める企画は検討していきます。

🌟 2組の感想 🌟

- ★緊張したが、早口にならず原稿通りに言えて良かった。めったにできない経験でした。
- ★実際に議員さんと同じ立場で議会に参加しました。ルールがたくさんあってびっくりした。はっきりと意見が言えて良かった。とても良い機会になりました。ありがとうございました。

令和7年第3回定例会を9月3日から9月18日までの16日間の会期で開き、
条例や補正予算などについて審議を行った。

【結果の表示】 ◎ 全会一致で可決・認定・決定・採択 ○ 賛成多数で可決など（次頁賛否一覧参照）

◇条例の制定（1件）	結果
立科町高齢者福祉基金条例制定	◎
◇補正予算（7件）	結果
令和7年度立科町一般会計補正予算（第5号）	◎
令和7年度立科町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	◎
令和7年度立科町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	◎
令和7年度立科町介護保険特別会計補正予算（第1号）	◎
令和7年度立科町索道事業特別会計補正予算（第2号）	○
令和7年度立科町一般会計補正予算（第6号）	○
令和7年度立科町索道事業特別会計補正予算（第3号）	○
◇認定等（8件）	結果
令和6年度立科町水道事業会計剰余金処分及び決算認定	◎
令和6年度立科町下水道事業会計剰余金処分及び決算認定	◎
令和6年度立科町一般会計歳入歳出決算認定	◎
令和6年度立科町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	◎
令和6年度立科町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	○
令和6年度立科町介護保険特別会計歳入歳出決算認定	◎
令和6年度立科町索道事業特別会計歳入歳出決算認定	◎
令和6年度立科町白樺高原下水道事業特別会計歳入歳出決算認定	◎
◇その他（1件）	結果
蓼科・中尾辺地に係る公共的施設の総合的な整備に関する財政上の計画の変更	◎
◇人事（2件）	結果
人権擁護委員の推薦につき意見を求めること	◎
立科町教育委員選任について同意を求める件	◎
◇陳情（1件）	結果
消費税減税を求める陳情	○
◇報告（2件）	
健全化判断比率等の報告	
立科町教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告	

令和7年度立科町索道事業特別会計補正予算（第2号）

★反対 村田 桂子

この議案は2つのスキー場の全面的リニューアルのために、今年度は2 in 1 スキー場に8億6千万円をかけてクワッドリフトの機器の全面架け替えを予算化、また令和8年度から令和13年度の6年間で26億4千万円、合計35億の大規模改修の予算化承認を求める議案である。町の年間予算に匹敵する莫大な財政負担を要する大事業に対し、町民に説明し了解を求めることもせず強行することは許されない。辺地債過疎債などを活用するが町の負担も7億円にもなる。中央公民館建て替え・公共交通の充実など住民の暮らしを優先する課題がある。よって本議案に反対する。

令和6年度立科町一般会計歳入歳出決算認定ほか7件

★賛成 森澤 文王

一般会計の歳入歳出に注目すると、歳入歳出差引額 6億3,625万5,306円。実質収支額 5億468万6,306円。立科町の財政は簡単には赤字にならないということが良くわかる。歳出においては、不用額に注目したが、特に問題はなく、例えば温暖化対策の補助金の不用額160万円余りは、予算に対して申請件数が少なかったものであり、不景気の中、積極的に勧めることが難しい事業の残額であると考えられた。その他の不用額は全体を通し、概ね予算より安く事業執行が出来ていたと高く評価をしてもよいと考えている。結果、決算を「不認定」とし業務の改善を促す必要は当該年度にはなく、決算の認定は賛成すべきと考える。

陳情第4号 消費税減税を求める陳情

★反対 榎本 真弓

1. 消費税は消費の多い世帯に効果が大きく、消費者間で不公平が生じる。低所得世帯や生活困窮世帯への直接的な支援にはなりにくい。
2. 消費税は社会保障の財源となっているため、地方交付税など財政に影響がでる。立科町の公共サービス維持が困難になる恐れがあり、社会保障財源不足を子供世代や将来世代に負担を押し付けることは避けるべきである。
3. 事業者には大きな負担を強いることになる。また、下げた税率を元に戻すのは極めて難しい。社会保障の低下を招かない、地方財政にも影響が出ないように進めるべきであり、減税を求める陳情に反対する。

★賛成 村田 桂子

天井しらずの物価高騰で町民の暮らしは厳しさを増し、賃金の上昇も物価高に追い付かず、極限まで追い詰められている。法人税や所得税最高税率など引き下げで、直接税の割合は低下し、消費税の占める割合は増え続けており、消費税が法人税などの減税の穴埋めに使われていることは明らか。物価高から暮らしを守り、景気の低迷を打破するためにも消費税の緊急減税が求められている。減税すれば、賃上げとセットで景気浮揚が図れ、増収に結び付く。また税源は富裕層への課税を強化、軍事費の見直しをすれば十分に確保できる。

★賛成 秦野 仁美

電気代やガソリン、食料品まで値上がりし、町民の皆様から「家計が苦しい」という声を聞く。そこに一律にかかる消費税は、収入の少ない方ほど重い負担になる。本来「社会保障のため」と説明されて導入された税だが、年金は減り、医療や介護の自己負担は増え、暮らしは楽になっていない。さらに昨年から始まったインボイス制度が中小の事業者や働く人を苦しめている。いま必要なのは消費税の減税である。減税すれば手取りが増え、買い物がしやすくなり、地域の経済も元気になる。町議会で国のことを話すのはどうか、という声もあるが、消費税は毎日の暮らしに直結する税金である。たとえ小さな町からの声でも国に届く。私は、町民の暮らしを守るため、議会として意思を示すことが大切だと訴える。

賛 否 一 覧

議案等番号	議 員 名 議案等の件名	秦野 仁 美	宮坂 幸 夫	小野 沢 常 裕	今井 健 児	芝間 教 男	中村 茂 弘	森澤 文 王	村田 桂 子	榎本 真 弓	今井 清	村松 浩 喜	今井 英 昭	議決結果
議案第47号	令和7年度立科町索道事業特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	—	可決
議案第51号	令和7年度立科町一般会計補正予算（第6号）	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	—	可決
議案第52号	令和7年度立科町索道事業特別会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	—	可決
認定第3号	令和6年度立科町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	—	認定
陳情第4号	消費税減税を求める陳情	○	■	■	○	○	■	○	○	■	■	○	—	採択

※「○」は賛成 「■」は反対 議長の今井英昭議員は採決に加わりません。
※これ以外の案件等は、全会一致でした。



決算特別委員会

9月12日・16日の2日間、決算特別委員会を開催し、令和6年度の決算議案について審査を行った。

「権現の湯」の運営形態

問

令和6年度は温泉館管理運営経費に一般財源から3728万6千円を繰り入れた。①令和4年度から6年度の繰入額の平均は約3547万円。役場正職員の給与を加えると、毎年約4400万円の支出になる。②バイオマスボイラーの導入により資産価値は高まる。①②から考察すると、町直営ではなく、指定管理や業務委託を検討しても良いのではないかと。



答

元々は福祉型の温泉と言われてきた。現在はそのような位置づけだけで温泉経営をしていく時代ではない。現状とは異なる運営形態へ舵を切る時が来るかもしれない。バイオマス活用が落ち着いた後には、町直営ではなく民間感覚を取り入れるという考えもある。

動物愛護管理推進事業

問

猫繁殖制限手術補助金の現在の状況は。

答

ポランティア団体等が行っており、町内約3分の2を回り終わった状況。

問

団体と個人の割合は。

答

令和6年度は166匹のうち143匹、86・1%が団体で残りが個人。

蓼科地区のごみ処理

問

蓼科地区の大型生ごみ処理機の令和6年度の効果は。

答

年間約18トンの削減が出来ており、一定程度の効果はある。

道の駅ツアーデスク設置

問

都市農村交流施設改修工事を行い、ツアーデスクを設置した状況と効果は。

答

これまで観光情報を発信する形がとれなかったが、設置により指定管理者側からも良かったとの声をいただいている。



道の駅 ツアーデスク

蓼科クロスカントリー コースの緑化工事

問 クロスカントリーコース緑化工事、1454万2千円の効果は。

答 今のところ、致命的な洗堀が起きていない。小規模修繕は行っているが、利用ができない状況には至っていないことから効果はあったと思う。

蓼科クロスカントリー コースの維持は必要か

問 仮設のトイレと簡易ハウスのレンタル料はいくらか。

答 期間は6月から11月まで、38万9778円である。



問 維持管理に毎年200万円から300万円が必要だが、使用料の収入が、9万800円では、お金の無駄遣いではないか。

答 既に整備されているコースなので、いかに費用をかけないかを工夫して管理していきたい。観光客を集める一つの商品なので、費用対効果だけでは考えられない。

料金表			
使用区分	午前	午後	1日
	日の出から正午	正午から日没	日の出から日没
小・中・高校生	200円	200円	200円
一般	400円	400円	400円

問 クロスカントリーコースは廃止して、女神湖周回道路の使い方を考えた方が良いと思うが、6年度の施設の使用者数はどうであったか。

答 6月が2人、7月が81人、8月が219人、9月が182人、10月が73人であった。

助成団体補助・男女 共同参画

問 女性団体補助金の対象が4分館と年々減少している。町が推進している男女共同参画を進めるために各地区の役員に女性を選出するよう働きかけるべきではないか。

答 各地区の考え方もある。ため難しいと考えている。

国民健康保険特別会計

問 収入未済額が2200万円と大きい。一般会計から繰り入れて保険料を引き下げられないか。

答 保険料の収納率は増えている。また、一般会計からの繰り入れは、法律で決まっているものだけで、保険料引き下げには使われていない。

問 基金の積立金決算年度末で9400万円となっている。基金を使って保険料の引き下げは考えないか。

答 急な病気の流行などで支出が増えたときにきちんと支払わなければなら

ない。財源不足にならないよう、想定外の支出に備えるために、事業規模の1割程度は基金を確保しておきたい。

介護保険特別会計

問 介護保険加入者数は13人増えているが、認定者数は11人減っている。予防事業が奏功しているのか。

答 予防事業も効果もあるが、介護から入院など医療へ移った人が増えている。認定率は14・6%である。

問 立科町の高齢化率は38・6%で前年より0・1%増。地域ごとの高齢化率は。

答 地域ごとの高齢化率は出していない。

問 町の介護保険料は大変高い。基金は前々期末で5千万円。令和6年度末では、1億6千3百万円余りに増えている。基金を取り崩して介護保険料をさげるべきではないか。

答 介護保険事業計画は3年を1期としており、第9期は令和6年度から8年度までとなり、令和6年

度は9期目の初年度となる。令和8年度までの3年間は保険料を変えられない。基金は支払いの補完のため準備しておく。なお、第8期の基準月額保険料は6950円で県下上位3番目であったが、第9期は550円引き下げ6400円で11番目となった。次期計画も基金を活用し保険料の算定を行っていく。

白樺高原下水道事業 特別会計

問 処理施設に不明水の流入が発生しているため、カメラ設置による調査業務を委託しているが、その結果、どの様に改善されたか。

答 白樺高原下水道では、不明水の流入が多いというところで、下水道のルートを幹線でいくつかに分け、定点カメラを設置し、雨天時及び晴天時の流量を測定。その中で特に流量の多い基幹管路が見つかった。令和7年度については、その管路内すべてにカメラを通し、異常、割れ、不明水の流入箇所の特定をする業務を発注している。

総務経済常任委員会

所 管 総務課・企画課・産業振興課・会計室・議会事務局

委員長／芝間教男 副委員長／中村茂弘

委 員／今井英昭 今井 清 榎本真弓 小野沢常裕

9月11日、付託案件を審査した。主な質疑内容は次のとおり。

質疑

役場の宿直・日直業務について

Q 12月から宿直業務が民間委託になる。時間と人員、業務内容は。

A 午後5時15分から次の朝の8時30分で一名体制、鍵の確認や電話の対応、見回りなど。

Q 緊急時の対応はどうするののか。

A 入札後にマニュアルを作成して対応ができるようにする。

Q 日直はどうするのか。

A 男性の宿直がなくなるので日直は男女二人で半日交代で行う予定。

産業振興課の地域おこし協力隊員の募集について

Q 何の分野でどのような条件か。

A 農業の分野で担い手になることを前提にする。

Q 米でも果樹でも何でも可。地域との交流をどうするか。

A 地域のベテランや里親制度を活用して教えてもらう。

Q もっと多くの協力隊員を募集したらどうか。

A 3年後の体制を考えると住む場所や提供する農地の面積などで同じ条件は難しいので、まずは1名から始めたい。

女神湖駐車場の拡張について

Q 場所はどこか。なぜ行うことにしたのか。

A 旧蓼泉閣側に3台ほどの駐車場があるが、路上駐車が目立ってきたので拡張する。

Q 歩道もあるが、どの辺を拡張するか。

A 三角形の土地があるので、そこに碎石を入れて、10台ほどの駐車場にする。

権現の湯の修理について

Q どこが、いつごろから具合が悪いのか。

A 女性の上がり湯の水位が数か月前から低下していた。6月ごろに機械室の天井からの漏水を確認した。現在は上がり湯を入れていない。入札して工期を決める。

社会文教建設常任委員会

所 管 町民課・建設環境課・教育委員会

委員長／村田桂子 副委員長／森澤文王

委 員／村松浩喜 今井健児 宮坂幸夫 秦野仁美

9月10日、付託案件を審査した。主な質疑内容は次のとおり。

質疑

立科町高齢者福祉基金条例制定について

Q 寄附者から使途のリクエストは何かあるのか。

A 細かい事はあるが大枠として高齢者福祉の充実のため基金を創設する。

令和7年度立科町一般会計補正予算(第5号)について

Q ごみ処理一般経費のバスカー車3台分120万円の修繕費の中身は。

A かなり車両の経年劣化が進んでおり、いろいろなところを修繕してきたが、修繕料が底をついてしまった。3月末までの見込みとして計上した。

Q 青少年育成事業経費42万とあるが中身は。

A シロアリ駆除の経費。主に和室の部屋の畳の部



消毒散布後のセンター内和室



青少年交流センター

分。壁や床に穴を開けて消毒を散布する他、畳などを交換する。



今井 清
いまい きよし

問 正規職員の過去10年間の中途退職者数について。

職場環境について

総務課長 平成27年度5億9400万円で歳出全体の12・2%、令和元年度7億4800万円で17・7%、令和6年度10億6900万円で18・6%と年々増加している。

問 過去10年間の人件費の推移は。

総務課長 平成27年度正規職員が78名、令和3年度95名、令和6年度87名。令和2年度に会計年度任用職員制度が開始され、会計年度任用職員は令和2年度80名、令和6年度が106名と増加。

問 過去10年間の保育園等を除く一般職の正規職員及び正規以外の職員数は。

町長 条例の職員定数は、定数の限度を示しているため改正は行っていない。

問 人口が10年で千人減少しているが、職員定数の見直しは行ってきたのか。

町職員の定数について

総務課長 平成27年度3名、28年度1名、29年度2名、30年度1名、令和元年度6名、2年度3名、3年度2名、4年度3名、5年度11名、6年度2名。

問 職場全体または課で中途退職者の対策会議を行ってきたのか。

総務課長 行っていない。

問 新人職員に対する各課のサポート体制はどのように行っているか。

総務課長 人事評価及び事業進捗状況の際に業務課題等の聞き取りを行っている。

問 職員が育たない職場は致命的な欠陥がある。早急な対策をとるために、職員でない第三者による相談窓口の設置が必要ではないか。

副町長 課題はあるがストレスチェックや職員研修等の現状体制で対応したい。

結 町税全部で人件費がまかなえない現状、最小の経費で最大の効果を上げるために職員定数管理が不可欠。町の将来は、次の世代を担う職員の育成にある。



立科町役場

小学生からの質問

問 8月29日に開催された「子ども議会」において、老朽化した小学校校舎の建て替え及び小中学校の統合の要望があった。小学校校舎の今後を町はどう考えているか。

町長 立科小学校は、旧立科南小学校・西小学校・東小学校の3校を統合し、昭和52年4月に開校した。建築から48年が経過する中、老朽化も進み、年々施設の修繕も大規模となって来ている。また、立科中学校も平成元年の建築以来36年が経過し、施設の維持管理費も年々大きくなつて来ている。

こうした状況の中、小中学校の児童生徒数は減少しており、町では人口増に向け、様々な子育て支援施策に取組んでいるが、即効の効果が得られるものでないことから、今後も児童生徒数の減少は続くと推測している。

こうした状況を踏まえ、今後の学校運営について「総合教育会議」において現状認識と情報共有を行っており、これからの時代に合った教育環境の整備に向け、行政事業や財源



森澤 文王
もりさわ ふみお

等の総合的な見地から慎重な考察が必要であると考えている。

問 義務教育施設の方が、任意で使う中央公民館の更新より優先順位が高いのではないかと。

町長 町民の皆様も利用する施設というものは、当然平等に考えて行かなければならない。その中でも達が通う施設も、もちろん重要であるが、総合的な見地から考えなければならぬ中で、現時点ではどちらも重要な施設であり、どちらが優先という訳にもいかないと思うが、少なくとも建築年度というものは、耐震化の問題も含めて考えれば、重要な問題であると考えている。



小学校の建替えの議論はスタートラインを跨いだばかりです



村田 桂子
むらた けいこ

体育センター・小中学校体育館 へのエアコン設置を

問 記録的猛暑で熱中症対策が急務。体育フロアへの設置を求めるが。

町長 熱中症対策のため、保育園遊戯室へのエアコン設置やクールシェアスポットの指定など対策を進めている。

問 体育センターの2階部分「キャットウォーク」にエアコンを配置」が都市部で多く見られる。特に体育センターは指定避難所であり必要だが。

教育次長 昭和57年度建設で採光に配慮しており、夏の昼間はかなり厳しい。現在は大型扇風機6台を配置して対策。大型の体育センターは設備に膨大な費用が掛かり、建設から42年たっているので、強度も確認し専門家の力も借りて検討したい。

問 効果的な冷房対策は事業者提案を募るサウンディング調査を提案したい。

小中学校体育館について文科省は、「断熱性能のあること」が設置の条件だったが、「断熱工事は15年までに完了すれば」と緩和。リース等で

費用抑制も可能となる。子ども議会でも権現山体育センターへのエアコン設置への強い要望が寄せられているが。

教育長 十分研究はしてみたい。

公民館へのエアコン設置について

問 補助率を2分の1、3分の2に上げてプッシュ式で実施し、地域のクールシェアとして急ぐべきだが。

教育次長 公民館の備品購入費補助要綱を改め、「集会を目的とした室内については必要最小限の台数が設置できる」よう見直した。

中央公民館の図書室にエアコンを設置しているので利用いただきたい。

住民の居室・寝室への エアコン設置に補助を

問 お盆を過ぎても35度を超える猛暑日が続く中で、エアコンは必須である。補助制度を作るべきだが。

町民課長 今のところ補助制度は考えていない。



会計室について

問 会計室は現在何人の職員が在籍しているか。

会計管理者 常勤職員2人、会計年度任用職員1人の計3人の職員体制。また、指定金融機関である佐久浅間農業協同組合立科支所より1人、職員を出向していただき、「JA佐久浅間出張所」窓口として公金収納の窓口業務を担当していただいている。

会計室について

問 基金はいくつあり、大きな金額の基金はどのようなものか。

会計管理者 令和6年度末では計19の基金がある。保有額が一番高い基金は財政調整基金であり、基金保有額は12億2660万1066円、2番目は公共施設等整備基金の8億6372万1689円、3番目はふるさと活性化基金の7億5090万1964円となる。

問 基金はどのように運用しているか。

会計管理者 町では「立科町公金管理基本方針」「立科町資金管理並びに運用基準」に則り、管理運用して



中村 茂弘
なかむら しげひろ

いる。令和元年度まで、各基金での管理としており、運用についても同様、基金ごとに普通預金又は定期預金での運用とし、利息が運用益となっていた。日本銀行の「マイナス金利政策」導入後の低金利状況下において、収益が大きく目減りしたことを受け、令和2年度から複数の基金をまとめて管理・運用する一括管理・運用方法に改め、債券での運用も開始し、これにより基金全体の運用効率を高め、収益性の向上にも繋げている。金融政策や市場動向等を注視しつつ情報収集を重ね、有利かつ安全で効率的な運用に努める。

公用車について

問 公用車は何台あるか、種類ごとに何う。

町長 消防車両を除き、現在50台の公用車を所有又はリース契約により利用している。種類別台数については担当課長に答弁させる。

総務課長 軽自動車は乗用車4台、貨物車21台、計25台。普通車は乗用車13台、貨物車3台、計16台。そのほか一般廃棄物収集運搬車両6台、マイクローバス2台、電気自動車1台の合計50台となる。

問 車両の更新にあたり走行距離と議会の議決に付す基準は。

総務課長 走行距離に基準はなく、安全面や要する修繕費など総合的な判断による。議会の議決に付すべき財産の取得金額は700万円以上となる。



小野沢 常裕
おのざわ としひろ

町有施設の指定管理について

問 指定管理施設からの町への納付金は、どう決められているのか。

産業振興課長 女神湖センターは施設納付金と営業利益の一定割合、索道事業は施設賃貸料、敷地使用料と営業利益の一定割合、農産物加工直売食料供給施設（農ん喜村）は第2駐車場の賃貸料と損益計算書の売上高の0.5%である。

問 令和6年度の納付金額はそれぞれいくらだったか。

産業振興課長 女神湖センターが269万4896円、索道事業が2885万5155円、農ん喜村が60万7000円であった。

問 農ん喜村の「長野大学との連携活動」が国土交通省の事例集に掲載された。その最後に「綺麗さ快適さで日本一のトイレを目指す」と記載されていたが、どう思うか。

町長 資料だけでは詳細が分からないので答弁は控える。

産業振興課長 私は思わず笑ってしまった。トイレの維持管理費は誰がいくら出しているのか。

円、光熱水費140万円、下水道13万円ほどを町が対応している。

問 組合法人との指定管理契約の最終年度に納付金が1%になった。それはどうしてか。

産業振興課長 直売所の新築や食堂の改修などを行い、集客と売り上げの増加が見込めることから決定した。

問 来年度からの指定管理者はどのように決めるのか。

町長 今までの実績により、現指定管理者を候補として選定している。

問 監査委員から随意契約の指摘があった。まずは公募したらどうか。

町長 地域の組合員の組織で、状況は「良」なので候補者としています。

「草刈り条例」で農地荒廃の抑制を

問 農地の所有者には、せめて草刈りだけでもしてほしい。鳥獣被害から生活を守るために、「草刈り条例」を作成したらどうか。

町長 農地の所有者には責務規定がある。適正管理を広報などで周知していくので今は考えていない。

問 議員や議会と協力し合って、条例を作らないか。

町長 所有者への押し付け的な状況になる。山に近い所の農地や里の農地の活用や管理をどうするか、先を見据えてしっかり定める必要がある。

結

先々を考えると制定したい。

コロナ明けの立科町における防災対策の進め方について

問 町長就任から6年余り。立科町における防災の現状はコロナをきっかけに後退をしている部分もあるようにも思われる。町長の所見はどうか。

町長 コロナ禍以降、非常食や組立てトイレや段ボールベッドなど災害備品の確認・購入を毎年実施しており、国・県の動向を注視しながら町の実情に見合った災害への備えを行っている。

町長として町民の命を守ることにについては何事にも代えられない再重要課題であり全力を尽くす覚悟は変わっていない。

問 自主防災組織の現状は

総務課長 当町には6団体の自主防災組織があると認識している。

区長部落長会議や町政懇談会の際に自主防災会の規約等を配布し更なる組織設立に向けた推進を図っている。

問 災害時の準備は進んだか。時間を追って行うべき町のタイムス



芝間 教男
しばま のりお

ケジュール計画を伺う。

総務課長 現在は国土交通省千曲川河川事務所による流域水害の「タイムライン」がある。

それ以外のタイムラインは策定していないが、災害発生時における町が行う事項等は地域防災計画等に定めされており、災害の種類や規模・被害状況等により、総合的に判断する。

タイムラインの作成は、それに縛られ、大事なところに目が届かなくなることも考えられる。策定は国・県の動向も注視し、研究を重ねて参りたい。

結

時間を追った行動計画は、町以外でも集落や個人ごとでも考えておくことが必要。町は災害の被害状況の確認を誰に指示していつまでに把握するのか。避難所に何人避難して、いつ何が必要なのか把握をするという基本的な重要事項であるので研究成果に期待する。



避難時一時集合場所（防災訓練時の様子）



秦野 仁美
はたの ひとみ

動き出した部活動地域移行

問 立科町の現状は。

教育長 今年7月に「地域クラブ運営協議会」を立ち上げ、課題や体制づくりについて協議を始めた。

問 見えてきた課題は。

教育次長 指導者の確保、送迎や費用負担、安全面や学校との連携など挙げられた。今後は、子どもや保護者の意見も取り入れて進めていく。

移住体験住宅（移住促進住宅）・クラインガルテンの活用について

問 役割は。

町長 移住体験住宅は平成27年度設置、短期滞在から移住への入口として活用。移住促進住宅は定住を前提とした一時居住施設。クラインガルテンは平成14年設置、都市農村交流や関係人口拡大に寄与。

問 利用実績や利用者の傾向は。

企画課長 令和6年度、移住体験住宅

宅は31世帯が利用し3世帯が移住。移住促進住宅は3世帯が利用し1世帯が定住。クラインガルテンは全15区が利用され、これまでに4世帯が移住。

問 課題や利用者の声は。

企画課長 光熱費や維持費は年平均51万円。利用者からは「滞在期間を長く」「住める住宅を増やしてほしい」との要望がある。観光利用防止のため、オンライン面談を導入し移住目的を確認している。

問 今後の展望は。

町長 移住体験住宅や移住促進住宅を定住の拠点に、クラインガルテンを関係人口拡大の拠点として発展させていく。今後、体験から定住へつなげる流れを明確にし、空き家や仕事情報との連携をはかりながら、人口減少対策の柱として積極的に推進していきたい。



移住体験住宅



クラインガルテン



今井 健児
いまい けんじ

権現山運動公園の再整備をして町民がより輝く街を推進しよう

問

近年、気軽に遊べるアーバンスポーツ、特に3×3、いわゆるバスケットボールや、新たな施設を求める声があり、さらなる地域住民の体育の向上、健康の増進、社会福祉、および教育文化の向上に寄与し、時代のニーズに応える環境整備が必要と考えるが、町の考えは。

町長 バスケットボールの3×3を含め、若い世代のニーズも把握しながら、他の優先事業との調整も図り、今後も町民にご利用いただける公園であるよう、整備を行ってまいりたい。

問

教育委員会は検討した経緯がこれまでであるか、また、今後を含めてどう考えているか。

教育次長 令和7年3月の定例議会の一般質問において、他議員より同様の質問があった。

以来、近隣自治体の状況や、設置の候補地、その実現の可能性等について担当課では話題としていた。

令和8年度において、風の子広場の遊具の更新等、構想をまとめる方向



昨年整備された愛川町のバスケットコート

であり、その際に整備が可能なのか、住民のニーズも把握しつつ、今後の検討課題とする。

問

人口減少を食い止めるために、立科町の魅力の一つである権現山に、町有林の木材を使った、大人も楽しめるアスレチックを作ったかどうかという提案があった。町はどのように考えるか。

町長 一般的に、木材遊具は維持管理が大変難しく、また、経費の問題もあり、今後、慎重に研究していきたいというふうに考えている。



村松 浩喜
むらまつ ひろよし

町内事業者の利用率は向上したか

問 昨年9月の一般質問で私は、役場で物品やサービスを購入する際には、町内事業者を優先して利用すべきだと述べた。今年度の方針は、

町長 地方自治体による契約の原則は、経済性、公平性、競争性だ。その上で、地域経済の活性化や雇用創出に繋げるため、以前から町内事業者の利用には配慮している。この方針は変わらない。

問 令和6年度の発注額において、町内事業者の占める割合は、

総務課長 一般会計の実績で答える。物品購入は55%で、5年度対比3%増。サービスの提供は35%で、5年度対比1%減。町内事業者では取り扱いがなく、発注できない場合もある。

町の宣伝活動を行う団体等への支援を充実させるべきだ

問 町外へ出向いて立科町の宣伝活動をするには必要だ。しかし、これを役場職員だけで行うのには限界がある。民間の力を借りて、さまざまな場所で数多く実施した方が効果的だと思う。その場合、町からの

支援を充実させるべきではないか。

町長 既に、観光協会や商工会に補助金を交付して宣伝活動を行っている。役場職員が町外へ出向く宣伝活動は、友好都市、関係市町村や広域エリアで行う宣伝会が中心だ。多くの観光客や特産品の販売が見込めるエリアの情報収集に努めたい。

問 商工会青年部は「きよせ市民まつり」に毎年参加している。これにかかる費用は商工会への補助金では賄いきれず、個人負担が発生しているようだ。この活動への経済的支援が難しければ、10年間変わらない商工会への補助金を増額することはできないか。

産業振興課長 商工会に確認したところ、「きよせ市民まつり」の費用は商工会で負担していると回答があった。町長 補助金の増額については、必要額を積み上げて町と協議してほしい。

蓼科高校の特色ある学びの場として、森林活用への協力はできないか

問 蓼科高校を存続させるため、積極的に同校と連携して、特色ある学びの場を提供するべきである。私は林業分野に着目した。使われていない学校林（林道西峰線沿い）を活用したらどうか。

教育長 林業科がない現在では、林業・林産を目的にした学校林の活用は難しい。しかし、水を蓄える、地球温暖化を防ぐなど、森林の果たす役割を学習することには活用できそうだ。

問 信州ワーキングホリデーとは。また、当町の参加の有無は。

企画課長 長野県の暮らしと仕事の魅力をセットで伝え、移住・二地域居住を促進する目的で今年新たに10市町村を対象に実施する県の事業であるが当町では応募していない。

問 4月の人事異動で町長が新たな課長に指示した事項は、

町長 4月に理事者懇談会を開催することで、事業概要とスケジュールを確認し、必要に応じて打ち合わせを行い、対応を決めている。

問 立科町マスコットキャラクターの販売をしてほしいが、

企画課長 町は職員用ユニホームとした経過があるが、販売する予定はない。

問 土地改良区に対する補助金について、前町長の4年間と現町政となつてから4年間の補助金額を問う。

町長 前町長在任4年間の補助金額は5234万4千円、現町政となつてから4年間の補助金額は8158万1千円である。

問 令和6年度の再任用職員と会計年度任用職員に対するそれぞれ

の給与支払い額は、

総務課長 再任用職員の支給金額は7773万7839円、会計年度任用職員144名に対する支給金額は3億1114万8986円。

問 たてしな保育園長の後継者づくりができていない責任についてどう考えるか。

教育長 職員採用にあたり、年齢構成の平準化ができなかったことと捉えている。

問 専門職資格を有した園長人事の導入をしては、

教育長 新たに特別な資格を持った専門職を任用することは考えていない。

問 小学校、保育園周辺の環境整備について夏休み中の実施内容は、

教育次長 小学校では校庭に砂を入れ、転圧し、校庭や校舎周辺の草刈り、給食棟の屋根の清掃等を行った。芦田商店街の活性化について町長の考えは、

町長 立科町商工会、芦田商業会や民間事業者が積極的に取り組んでいる。町も連携しながら取り組みをサポートしていきたいと考えている。

問 中原宮前の4路線のその後の整備状況は、

建設環境課長 本年度は中原宮前線の道路側溝の修繕工事を実施した。



宮坂 幸夫
みやさか ゆきあき

子ども・高齢者と地域をつなぐ架け橋に

民生児童委員協議会・社会文教建設常任委員会合同研修会

毎年行っている民生児童委員協議会（山浦康弘会長／民生児童委員21人、主任児童委員2名）との合同研修会。3つの部会に分かれて課題などを話していただきました。



● **高齢福祉部会**
（定期的な独居老人宅の訪問・見守り・相談、高齢者施設等への見守り）

- 介護福祉施設には、介護予防のメニューがたくさんあるので見学会や体験できる機会があると良い。
- 個人情報の取り扱いが厳しく、活動の中で必要だと思う情報を得る事が難しくなっている
- 「人に迷惑をかけたくない…」といった気持ちが外出をさける要因になっている。
- 委員自体も、働きながら活動をしている人が増えた。時代と共に変化してきている。すぐに対応できない事もある。
- 訪問しやすくなる仕掛けが欲しい。

《今後への抱負・要望》

- ・「必要になってきたかな…」と思う方に施設の案内をして利活用してもらいたい。
- ・料理教室など催し物の充実で、社会に出る機会を増やしてあげる事が必要。
- ・守秘義務を守る立場で活動をしているので、もう少し情報を貰いたい。
- ・今後の民生委員のあり方を検討する。
- ・訪問する機会を増やすために、何かチラシなどを作り持っていく。

● **児童福祉部会**

（保育園行事への手伝い・児童館での見守り・朝のあいさつ運動）



- 支援が必要と思われる児童の情報が委員に届かない。
- コロナ以前のような学校との情報交換も減り、先生方とのつながりも希薄になった。
- 不登校の情報があっても家庭が隠してしまう場合も多く、委員だけでは解決できない現実がある。
- こどもに声をかけると「不審者」と思われるなど、関わり方が難しくなっている。

《今後の抱負》

- ・子どもたちから声をかけてもらえる関係づくりをしたい。
- ・朝の挨拶や地区懇談会・児童館での活動などで顔と名前を覚えてもらうなど積極的に子どもたちと関わりたい。



【要望・提言】

- ・仕事を持つ子が高齢の親の面倒をみる状況を支援する仕組みがほしい。
- ・町内はもちろん、上田、佐久まで出かけられるような公共交通の整備を望む。
- ・高齢者・若者・子どもの異なる世代が集まれるような場所や機会を作ると良い。

● **地域福祉部会**（社協との連携・ふれ愛むらへの協力）

- 家庭訪問するが、人付き合いの苦手な方もいる。
- 面識のある独居老人の孤独死にはショックを受ける。
- 数年前は元気でも、現在は衰えている方もいる。
- 独居者や農作業をしている高齢者は比較的元気なのは高齢夫婦（75歳以上）や家でじっとしている人は心配だ。
- 高齢でも元気に過ごすために、話すことは大事だ。
- 女性はお茶飲み会などで集まるが、男性は少ないようだ。

【地区の活動例】

- ・桐原：お茶飲み会、そば会、ボッチャなどで月1回集まるグループがある。男性のリーダーのような方がいて男性の参加率を上げている。
- ・大城：週1回散歩するグループや、月1回公民館でお茶飲みをする会がある。地域での集まりを楽しみにしている。

聴かせてください あなたの思い No.4

広報広聴委員会

令和7年8月20日、立科町商工会
青年部の皆さんと意見交換会を行いました。



商工会の活動や
まちづくりについて
こんなことが言いたいです

議員から説明しました

- 清瀬市の蓼科山荘閉鎖について
- 清瀬市の市民祭や町との交流について
- 体験住宅や働く場所について
- 耐震や空き家の片付け、空き家の改修の支援について
- レッドゾーンからの移転について
- 9月の一般質問への取り上げについて

- 清瀬市の市民祭りに参加しているが、毎年赤字が続いている。清瀬の市民は立科町をよく知っている。青年部だけの交流でなく、町も交流を考えてほしい。
- 藤沢集落にはレッドゾーンがある。災害防止の支援や移住の支援がほしい。
- 移住希望者が家を探している。住める家がない。一週間の住宅体験では短すぎる。
- 「家を建てる、壊す」にもっと支援がほしい。現住民への支援も強化してほしい。
- 高齢化や人口減少が進んでいる。消防団も影響を受けている。若い人が戻ってこない。住む場所、働く場所が少ない。企業誘致を考えてほしい。

次回は「立科町に移住された皆さんとの語らい」です。

日時：11月13日（木）午後2時～ 場所：中央公民館大会議室

町に来て感じたこと、暮らしの中での声、町への思いなど、ぜひお聞かせください。
皆さんのご参加をお待ちしています。

お申込み、お問合せは
議会事務局 Tel0267-88-8413 E-mail:gikai@town.tateshina.nagano.jp

通年型リゾート地視察

令和7年8月19日、議員10名、議会事務局2名、副町長他役場職員5名にて、観光先進地を視察しました。これは、7月10日の議会研修会で講演していただいた和田寛氏が携わった施設等を訪れて、当町の高原観光や地域づくりの参考にするために企画したものです。和田氏も同行し、白馬岩岳マウンテンリゾートや、その他の施設も案内してくださいました。白馬岩岳エリアを冬場のスキー客だけに頼らない通年型のリゾートとして生まれ変わらせた知恵と工夫、既存施設を改修して活用する地域づくりの手法には、学ぶところが多いです。



白馬岩岳マウンテンリゾート



昨年12月に開業したゴンドラの山麓駅



10人乗りのゴンドラリフト



絶景プランコ「ヤッホー! スウィング」



マウンテンバイクとマウンテンカート



ゴンドラ山頂駅前に広がるスペース



アウトドアブランドと提携したエリア

「Snow Peak LAND STATION HAKUBA」館内に観光案内所を設置



「庄屋丸ハダイニング」歴史的な古民家を改修したレストラン



「Square8」古民家を改修したホテル



「ao LAKESIDE CAFE」サウナを併設した青木湖畔のカフェ



議会活動について「ご意見・ご要望」をお聞かせください。

発行／長野県立科町議会 編集／広報広聴委員会

〒384-2305 長野県北佐久郡立科町芦田2532番地 TEL(0267)88-8413 FAX(0267)56-2310

E-mail gikai@town.tateshina.nagano.jp URL https://www.town.tateshina.nagano.jp



議会ホームページ

広報広聴委員会

委員長
副委員長
委員

秦野仁美
小野沢常裕
榎本真弓
村田桂子
芝間教男
今井健児

○今後とも「議会だより」をご愛読ください。

みんなが自分を探している81歳
「同感だわあ」と思いつつ
もまだまだ頑張る71歳です。

榎本 真弓

くすつと笑える文章に出会いました。
心がもろいのが18歳 骨がもろいのが81歳
ドキドキが止まらないのが18歳 動悸が止まらないのが81歳
恋で胸を詰まらせるのが18歳 餅で喉を詰まらせるのが81歳
偏差値が気になる18歳 血糖値が気になる81歳
まだ何も知らない18歳 も何も覚えていない81歳
自分探しをしている18歳 みんなが自分を探している81歳

編集後記